

令和 7 年度札幌市北方自然教育園管理業務実施報告書

北方コンソーシアム 代表団体
公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
理事長 本 間 芳 明

令和 7 年度札幌市北方自然教育園管理業務につきまして、「札幌市北方自然教育園管理業務等仕様書」内の「第 4 業務の内容と要求水準」及び「第 5 その他」の項目に沿って、以下の通りご報告いたします。

1 統括管理業務

(1) 管理運営業務の基本方針

「北方自然教育園をより魅力ある施設へ」

学校教育における自然体験を学ぶ野外教育補助施設として、田植え体験や果樹収穫体験などの体験活動の提供のほか、教材用生物配布としてコオロギやカイコの手配から配布までを行い、各学校での自然体験活動の機会を概ね滞りなく提供することができた。一方で、ヒグマの出没により屋外観察園を一定期間閉鎖せざるを得ない事態となり、一部果樹の収穫体験も中止とした。園内閉鎖となったため、来場者や事業参加者数は大きく減少し目標数値には達しなかったものの、電柵の強化やコンポストの撤去、定点カメラの設置など、野生生物被害への対策や施設自体の運営方法の見直しなどをするきっかけとなり、次年度以降も継続して対応することとした。

また、北方自然教育園の魅力を教育機関だけでなく、広く市民に知っていただくために、学習館内での常設展示や特別展示を工夫するとともに、ファミリー層をターゲットとした環境整備も行った。結果としては新規利用層やリピーター層の満足度を向上させることができた。

管理面では、財団内や所属団体との連携を図りながら、より計画的に屋外作業などを進め、作業の効率化とエネルギー使用量などの削減、引いては経費の削減となるよう取り組むことができた。

【事業目標への取り組み】

① 目標「外部及び関係団体との連携による各種事業、展示物の活性化に努めます。」

札幌市に根付いた教育文化施設の役目を果たすべく、水田・果樹・農作だけでなく、生物外来種問題に着目し関係団体より協力を経て海外産の昆虫を展示するなど、来館者増加に向けた取り組みを行った。その結果、昆虫に興味を持つ子どもたちや地域住民にとって、憩いと学びの場となる環境づくりにつなげることができた。

② 目標「園内での公園機能に、あそびの要素を加え、ファミリー層をターゲットに、日常的リピーター利用者の増加を図ります。」

館内展示の観覧だけでなく、ロビーに玩具で遊べるキッズスペースを設置したほか、大人から子どもまで楽しめる書籍の充実にも取り組んだ。利用者からは「また来ました」といった声が多く寄せられ、ファミリー層を中心に継続的に施設を利用する来館者が増えている様子が見えた。

③ 目標「施設の管理運営方法を見直し、経費削減を進めます」

財団内や関係団体との連携を図り、屋外作業の支援を受けるなど、各種事業にかかる費用の抑制に努めた。限られた予算の中でも工夫を重ね、効率的な施設運営につなげることができた。

(2) 平等利用の確保

さまざまな利用者が安心して施設を利用できるよう、施設環境や設備の見直しを行い、アクセシビリティ向上に向けた課題や対応について職員間で情報共有を図った。

(3) 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

日頃から細かな消灯、不必要な印刷物の削減など一人でもできる活動に取り組み、職員一人一人の環境配慮活動を推進することで、施設全体としてかかる消費エネルギー量の削減に取り組んだ。

(4) 管理運営組織の確立

緊急時に迅速かつ適切な対応が行えるよう、連絡体制の整備を進めるとともに、統括管理者および執務代理者を配置し、安定した施設運営に努めた。また、各職員が自身の役割を認識し責任を持って業務に取り組めるよう、日々の打合せで進捗状況を共有し、その内容に応じて柔軟に業務分担を調整した。

(5) 管理水準の維持向上に向けた取組

接遇研修をはじめとした各種研修を実施し、公共施設職員として求められる接客対応の質の維持・向上に努めた。また、避難訓練等を通じて非常時における職員の役割を再確認し、緊急時の市民誘導や対応が円滑に行える体制づくりを進めた。

(6) 第三者に対する委託業務等の管理

委託業者の選定にあたっては、暴力団や反社会的勢力との関係がないことを事前に確認するとともに、確実な業務遂行が可能な事業者であることを精査したうえで入札・委託を行うことを徹底した。また、利用者の安全確保を最優先に業務を実施し、市民利用に支障が生じないよう十分配慮した。

(7) 委員会及び関係機関との連絡調整等

令和7年度の運営協議会については、事業についての報告や利用者からのアンケート結果を正確に報告し、委員の方から多面的な意見や感想をいただき、その後の施設運営に反映させた。

(8) 財務

金銭の収入事務については当財団の財務規程に基づいて適正に実施した。利用料金や参加料の取扱いについては必ず複数人で確認作業を行い、適確な金銭管理を行った。

(9) 苦情対応

市民からの意見があった場合には迅速に回答をするため、教育委員会への共有や報告など連携を図り誠実な対応ができる連絡体制を構築した。

(10) 記録・モニタリング・報告・評価

日常的な施設利用者や事業参加者を対象に随時アンケート調査を実施し、そのモニタリング結果については掲示を通じて市民へ公開した。また、各種データや書類を適切に管理するとともに、札幌市からの調査や報告依頼に対しても正確かつ適切に対応した。

2 施設・設備等の維持管理に関する業務

(1) 総括的事項

①利用者等の安全確保、市民サービスの向上への配慮等

不測の事態に備え自衛消防隊を組織し、消防計画に基づき消防訓練を実施した（令和7年11月20日、令和8年3月26日実施）。

②連絡体制確保

職員および教育委員会など各関係機関との連絡体制を整備し、職員間で共有した。

③保険加入

事故やケガなど有事に備え、施設賠償責任保険及び損害賠償責任保険に加入した。

(2) 施設、設備等の維持に関する業務

①清掃業務

日常清掃については職員が対応し、施設における環境の美化に努めた。また年に2回は専門の清掃会社に委託し特別清掃を実施した（令和7年12月18日、令和8年3月26日実施）。

ア 日常の清掃業務および施設内外の清掃業務（指定管理者が実施）

イ 特別清掃業務（株式会社キョーエー札幌に委託し実施）

②警備業務

閉館後の夜間や年末年始を含めた休園日の警備については、施設内安全管理のため警備会社に警備業務を委託し実施した。警備の記録については毎月警備会社から適正に報告を受けた。その他火災や事故などの防止策については、定期的に職員においても点検を実施した。

ア 警備業務（委託業者：株式会社ベルックス 機械警備として通年実施）

イ 火災・事故の防止（指定管理者が日常点検として実施）

ウ 火災または事故など有事の緊急対応（緊急連絡体制の作成）

③施設及び設備の保守点検業務

専門業者に委託して設備点検業務を実施した。

（委託業者：三城美装株式会社 通年実施）

ア 自家用工作物保安業務

イ 浄化槽維持管理業務

ウ 冷暖房設備保守管理業務

エ 受水槽清掃業務

オ 温風器整備点検業務

④修繕

日常点検を実施し、施設や備品などで修繕が必要と判断されたものについては、その程度に応じて職員による補修もしくは専門業者へ修繕を依頼し、利用者に影響が及ばないように速やかに修繕対応を行った。

ア 温水循環ポンプ等修繕業務（令和7年5月29日実施）

イ 散水栓漏水修繕業務（令和7年11月21日実施）

ウ トラクター修繕業務（令和7年12月23日実施）

エ 温室石油暖房機修繕業務（令和8年1月20日実施）

オ トラクター緊急修繕業務（令和8年3月24日実施）

⑤備品管理

備品台帳に記録されている備品については、破損や劣化が生じないように細心の注意を払って使用し、継続して使用できるように維持管理を心がけた。

⑥駐車場管理

駐車場の管理及び駐車場利用車両に関しては、車両誘導や駐車スペースの清掃等、必要に応じて職員が対応し、利用者の快適性や安全性の確保に努めた。冬期間の除雪については専門業者に委託し、利用者の駐車場利用に支障がないよう環境整備に努めた。（委託業者：株式会社光和 12月～3月実施）

⑦外構緑地管理

美観の保持を目的とし、敷地内外の草木の選定や消毒を日常的に行った。

(3) 防災業務

消防設備保守点検については専門業者に委託し、年2回（令和7年8月6日、令和8年2月18日）の点検を行った。また消防訓練については初期消火を想定し、訓練を実施した。（委設備保守点検託業者：株式会社ベルックス）

3 事業の計画及び実施に関する業務

「令和7年度 札幌市北方自然教育園事業実施報告」

「令和7年度 事業実施報告内訳書」（資料1・2 参照）

4 施設の利用等に関する業務

「令和7年度 札幌市北方自然教育園月別利用状況一覧表」（資料3 参照）

5 管理業務に付随する業務

広報業務

「令和7年度 札幌市北方自然教育園事業実施報告」（資料1 P1「広報業務」参照）

6 その他

自主事業

「令和7年度 札幌市北方自然教育園事業実施報告」（資料1 P1「自主事業」参照）

令和7年度 札幌市北方自然教育園事業実施報告

事業名	目的・内容（対象・人数等）	時期・回数
市立幼稚園・認定こども園・学校に対する農業体験の機会提供に関する事業（体験農場）	食育の一環として、農業体験を通じた食への感謝の念を育む機会を設けた。公募に応じた学校を対象に、限られた時間内でも深い学びが得られるようプログラムを設計。単なる作業体験に留まらず、視覚的な理解を助けるパネル展示を導入することで、学習効果の向上と内容の充実に努めた。	5月～11月 1738名 延べ39校 ＜内訳＞ 畑作 13校 水田 22校 果樹 4校
市立幼稚園・認定こども園・学校に対する生物教材の提供に関する業務（教材用生物の提供）	授業で活用される教材生物（稲、ヘチマ、コオロギ、カイコ）の配付に向け、苗や生物の育成・調達を計画的に進めた。特に稲やヘチマに関しては、適切な温度・水分管理を徹底することで、安定した品質での提供に尽力した。また、配付当日の会場混雑を緩和するため、事前に品目ごとの仕分け作業を完了させておくなど、円滑な受け渡しを可能にする体制を整えて臨んだ。	生物教材配付日 ①5/29 ②5/30 申込202校 延べ592校 ＜内訳＞ 稲 70校 ヘチマ 192校 コオロギ 177校 カイコ 153校
広報業務	施設のPRにつながる活動や広報業務、外部に向けて施設の情報提供を行った。 ・Facebookページの更新 ・事業チラシ等の発行	通年随時
（自主事業） 自然体験に関する学習機会の提供に関する業務	市民を対象にした事業として、「自然体験学習会」の実施をし、利用の促進を図った。また児童会館を対象とした北方自然教育園の連携事業として「ようこそ北方自然教育園」を実施した。 ・ようこそ北方自然教育園 10/4.5 2組65名 ・家族でわくわく貝化石観察会 8/24 4組13名 ・自然素材のリース作り 11/16 2組6名 ・新年しめ飾りづくり 12/13.14 11組28名 ・北方フルーツファーム 6/21.22 6組17名 ・北方ファーム 5/18.6/14.15.7/6.8/3.17.9/13.14 20組69名 ・自然体験工作会（簡単ロビー工作）4～3月 84組167名	4～3月 合計 129組365名
（自主事業） 自然体験や展示に関する情報の収集および提供に関する事業	北方自然教育園のリーフレットデザイン更新及び、配布を開始した。また、SNS等を活用した広報により自然及び自然情報の発信を行った。（稲、野菜の生育状況など）	通年随時

務（情報収集・提供事業）		
（自主事業） 自然体験や展示に関する市民の自主的な活動及び交流の支援	市民ボランティア事業は、ボランティアの方々に協力いただき、園内美化に関わる業務の補助や体験農場や自然体験の事業の補助業務に尽力をいただいた。 〈市民ボランティア自主活動事業〉	市民ボランティア事業（登録者 10 人） 4 月～3 月 延べ人数 91 人
（自主事業） 自然体験や展示に関する相談業務（相談業務）	生物や展示内容などについての相談業務を日常的に行い、市民やマスメディアからの問い合わせ業務に対応した。受けた質問などは記録し、職員間での共有を図れるように実施した。	通年随時
（自主事業） その他北方自然教育園の設置目的を達成するために必要な業務	北方自然教育園が持つ体験学習施設としての機能を広く発揮するため、市民を対象とした各種体験事業を展開した。教職員を対象とした研修では、自然観察や飼育栽培の実践的な講習を行い、当園の持つ役割や活用方法についての理解を促進した。 ・教職員研修事業 7/29 1 組 8 名 ・北方スノーシュー自然観察スノーシュー 1/31 1 組 11 名 ・大人の学び舎（山野草講座） 5/4 12 組 13 名	計 14 組 32 名
（自主事業） （調査・研究）	今年度の新たなアプローチとして、果樹や野菜の生育の様子を各学校とオンラインでつなぎ、農業指導員がリアルタイムで解説する形式を導入した。（過去実績 1 校、札幌市立新琴似北中学校）この試みにより、現地への移動が難しい対象者に対してもプログラムを届けることが可能となった。また、双方向のコミュニケーションが可能なオンラインツールを用いたことで、参加者との間で活発な質疑応答や意見交換が行われ、より深みのある学習機会を提供することができた。	5 月～10 月
（自主事業） 事業実施計画書 （地域活動等事業） 自然環境関連 セミナー	園内のフィールド資源や館内の資料の活用と共に、昆虫の知識を学ぶ機会の提供を行った。第 1 回では園内を散策して昆虫を探し、第 2 回ではピットフォールトラップをしかけよう、第 3 回では蝶を飼育してみようというテーマで実施した。	7/26, 8/2, 8/9 20 組 47 名

＜令和 7 年度事業実施報告内訳＞

【自然体験に関する学習機会の提供に関する業務】

単発型自然体験

回	月日	曜日	内 容	参加人数
1	8/24	日	「家族でわくわく貝化石観察会」 サッポロカイギュウの発見者でもある棚橋邦雄親子の協力のもと、豊平河川敷を散策しながら地層の説明や貝化石の観察方法を学び、発掘体験を実施した。	4 組 13 名
2	11/16	日	「自然素材のリース作り」 小学生を含む家族を対象に、園内で採取したつる性植物「クズ」を用いたリースづくりを実施した。装飾に使用する自然素材を親子で吟味しながら作成し、完成したリースを家族ごとに発表していただいた。	2 組 6 名
3	12/13	土	「新年しめ飾りづくり」 自然素材を活用したものづくりを体験する事業で、親子で菅を編み込み、しめ飾りを作った。日本古来の伝統文化を親子で楽しみながら学ぶ機会を提供した。	12/13 5 組 12 名
4	12/14	日		12/14 6 組 16 名
5	10/5	土	「ようこそ北方自然教育園」 子どもに関わる一般団体を対象とした事業であり、ナシの収穫体験や園内での様々な自然体験活動をとおして、自然に興味を持つ機会を提供した。 第 1 回はいなづみ児童会館、第 2 回は NPO 法人そだちの社に参加いただき、園内の様々な自然資源を活用して楽しく体験活動を行っていただいた。 なお、第 3 回～第 6 回については、クマ出没につき中止（別日にスタッフが収穫した梨を利用者に来園していただき引き渡しを实地）	10/4 1組27名
6	10/6	日		10/5 1組28名
7	10/18	土		
8	10/19	日		
9	10/25	土		
10	10/26	日		
11	7/26	土	自然環境関連セミナー 園内のフィールド資源や館内の資料の活用と共に、昆虫の知識を学ぶ機会の提供を行った。第 1 回では園内を散策して昆虫を探し、第 2 回ではピットフォールトラップをしかけよう、第 3 回では蝶を飼育してみようというテーマで実施した。	7/26 8組18名
	8/2	土		8/2 7組15名
	8/9	土		8/9 5組13名
小計(5 事業 9 回)				39 組 148 名

継続型自然体験

回	月日	曜日	内 容	参加人数
1	5/18	日	「北方ファーム～家族で食べ物育て隊」（トウモロコシ日曜コース）① 親子を対象に、農作物を育てて収穫するまでの体験を行う全 3 回の事業の 1 回目として、農作物についての学習と畑でトウモロコシの種まき体験を行った。	5 組 18 名
2	6/21	土	「北方ファーム～家族で食べ物育て隊」（エダマメ土曜コース）① 親子を対象に、農作物を育てて収穫するまでの体験を行う全 3 回の事業の 1 回目として、農作物についての学習と畑でエダマメの種まき体験を行った。	2 組 5 名

3	6/22	日	「北方ファーム～家族で食べ物育て隊」(エダマメ日曜コース)① 親子を対象に、農作物を育てて収穫するまでの体験を行う全3回の事業の1回目として、農作物についての学習と畑でエダマメの種まき体験を行った。	4組 12名
4	7/6	日	「北方ファーム～家族で食べ物育て隊」(トウモロコシ日曜コース) ②※継続参加者 2回目は、トウモロコシの生育状況の観察と記録作成、生育に大きく影響のある除草作業を親子で実施した。	5組 18名
5	8/3	日	「北方ファーム～家族で食べ物育て隊」(エダマメ日曜コース) ②※継続参加者 2回目は、エダマメの生育状況の観察と記録作成、生育に大きく影響のある除草作業を親子で実施した。	1組 3名
6	8/17	日	「北方ファーム～家族で食べ物育て隊」(トウモロコシ日曜コース) ③※継続参加者 3回目はこれまでの回を振り返りながら、丁寧に育てた野菜を親子で協力し合いながら楽しんで収穫体験を行った。	5組 18名
7	9/13	土	「北方ファーム～家族で食べ物育て隊」(エダマメ土曜コース) ③※継続参加者 3回目はこれまでの回を振り返りながら、丁寧に育てた野菜を親子で協力し合いながら楽しんで収穫体験を行った。	1組 3名
8	9/14	日	「北方ファーム～家族で食べ物育て隊」(エダマメ日曜コース) ③※継続参加者 3回目はこれまでの回を振り返りながら、丁寧に育てた野菜を親子で協力し合いながら楽しんで収穫体験を行った。	1組 3名
9	6/13	土	「北方フルーツファーム～家族で果物育て隊～」(土曜コース) 親子を対象に、果樹園にあるナシを育て収穫する全2回の事業となり、1回目は摘果(果実の間引き)や、袋かけ作業体験を親子で楽しみながら行った。	1組 3名
10	6/14	日	「北方フルーツファーム～家族で果物育て隊～」(日曜コース) 親子を対象に、果樹園にあるナシを育て収穫する全2回の事業となり、1回目は摘果(果実の間引き)や、袋かけ作業体験を親子で楽しみながら行った。	1組 3名
11	10/11	土	「北方フルーツファーム～家族で果物育て隊～」(土曜コース)② ※継続参加者 ※クマ出沒につき中止(別日にスタッフが収穫した梨を利用者に来園して頂き引き渡しを实地)	
12	10/12	日	「北方フルーツファーム～家族で果物育て隊～」(日曜コース)② ※継続参加者 ※クマ出沒につき中止(別日にスタッフが収穫した梨を利用者に来園して頂き引き渡しを实地)	
合計(2事業全12回)				26組 86名

【自然体験や展示に関する市民の自主的な活動及び交流の支援】

市民ボランティア事業

回	月日	曜日	内 容	参加人数
1	随時	—	個別自主活動による園内の環境美化、事業補助業務 ・枯れ枝拾い、花壇用花卉の播種、花壇および農場の除草、体験農場の補助	81名
合計(1事業全68回)				81名

教育機関支援事業

回	月日	曜日	内 容	参加人数
1	1/27 ～2/25	—	「学生展示」 東海大学生物学科の学生による研究調査結果の発表の場として展示スペースを提供し、「野鳥」をテーマに研究した内容のクイズをつくるなど工夫を凝らしたり、展示物やパネルを用いて展示した。	期間中随時
合計(1事業全1回)				

【その他北方自然教育園の設置目的を達成するために必要な業務】

回	月日	曜日	内 容	参加人数
1	5/5	日	「春の自然散策～山野草講座～」 大人のための自然体験学習の場として、園内の春の自然環境を散策しながら山野草について学べる機会を提供した。講師には北海道薬科大学の名誉教授を招き、座学とフィールドワークを参加者に向けて実施をした。	12組 13名
2	7/26	金	「教職員研修事業」 札幌市教育委員会の教職員育成課が主となり、教職員の研修会の受入れを行い、野菜の除草作業や収穫体験、サクランボの残果処理を通して農業や自然体験の機会を提供した。	1組 8名
4	1/11～ 3/16	—	「北方スノーシュー 野鳥観察&自然観察」 毎週末はガイド付きで園内をスノーシューで自然観察ができる事業として実施した。参加者は動物の足跡を見つけたり、冬の景観をスノーシューを履いてゆっくりと散策した。	1組 11名
小計(3事業3回)				14組 32名

ロビー展示

回	月日	曜日	内 容	参加人数
1	7/6～ 8/20	—	「標本展示 棚橋コレクション 北海道で産出された化石と鉱石」 園内で見られる植物を中心に、山菜や山菜によく似た毒性のある植物についてパネルを活用して情報提供の場とした。	期間中随時
2	9/21 10/31	—	「パネル・生物展示 秋の散策で注意したい生物」 「家族でわくわく貝化石観察会」事業の開催と併せて、北海道で産出された化石と鉱物について書物や鉱石の実物を展示する充実した内容で利用者に学習の機会を提供した。	期間中随時
3	12/14 ～1/19	—	「パネル展示 冬の森でなんだろー」 北海道に生息しているヒグマやスズメバチなどの危険生物について、実際に遭遇した場合の対処法や生態などについてパネルで紹介した。	期間中随時
4	2/15～ 3/15	—	「教育機関等支援連動展示 学生展示」 クイズ形式で、冬の森で見られる動植物について楽しみながら学べる展示を行った。	期間中随時
合計(4事業4回)				